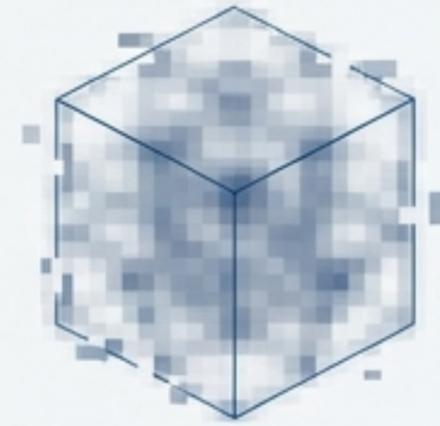


プロジェクト別原価 計算のメカニズム

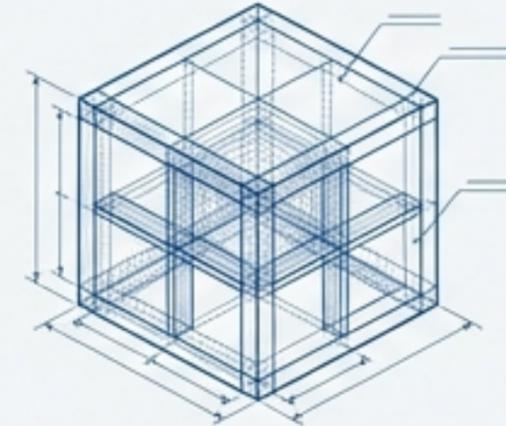
正確な収支管理を実現するための
「直接費」と「間接費」の構造的
アプローチ

不明瞭な原価



↓ 構造化 (Structuring)

正確な原価



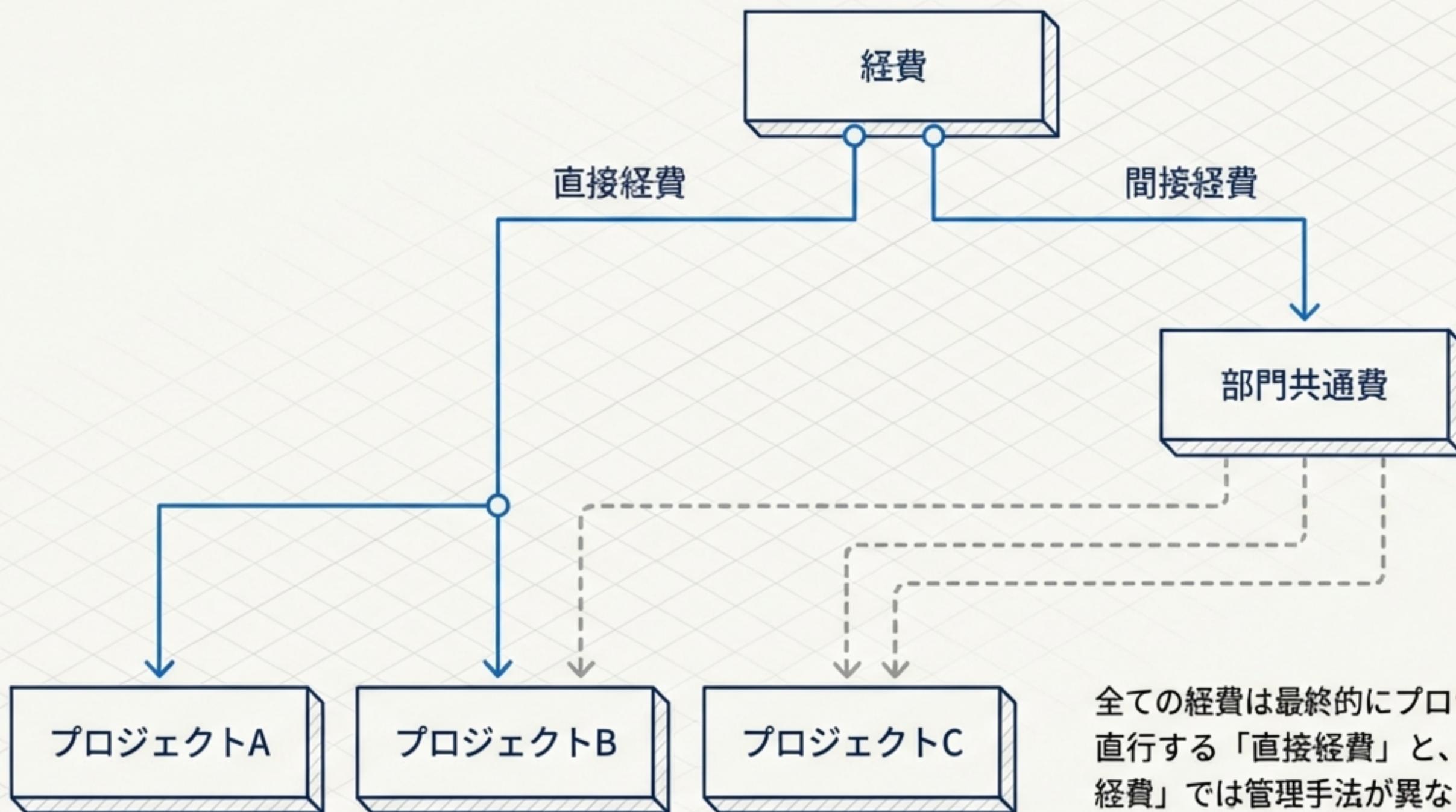
CORE MESSAGE

プロジェクトの真の利益を把握するためには、発生した経費が「どのルート」を通過してプロジェクトに着地するかを理解する必要があります。

本資料では、実務上の重要ポイントである「直接経費の特定」と「間接経費の配賦」のフローを解説します。

- Direct Costs: 発注段階でのプロジェクト特定が必須
- Indirect Costs: 部門共通費として集計後に配賦

経費の流れ全体図：2つのルート



全ての経費は最終的にプロジェクトに紐付きませんが、直行する「直接経費」と、部門を経由する「間接経費」では管理手法が異なります。

ルート1：直接経費と外注費の処理



定義

その外注先に支払う報酬が、特定のプロジェクト遂行のためだけに発生した場合、「直接外注費」となります。

実務ルール

プロジェクトAのために発注した費用は、迷わずプロジェクトAの原価として計上します。他のプロジェクトと混同してはいけません。

例

Bプロジェクト従事者のための旅費交通費も、同様に「直接経費」として特定します。

【警告】発注プロセスにおけるコンプライアンス

BAD PROCESS



かんせうしょじゆりやうごのたしやん (じゆごたいおん)

GOOD PROCESS



じゆごたいおんごのたしやん (じゆごたいおん)

****重要: なれ合いの排除**** 既存の特定外注業者との取引であっても、省略せずに都度見積もりと発注承認を行うこと。不当な金額の請求防止、および実態を伴わない請求を排除するため、上長承認を徹底してください。

会計システムへの入力実例



	部門	勘定科目	補助科目	取引先	プロジェクト	借方金額	貸方金額
1	031 第1部門	651 外注費 課仕入	10%	0033 ONE株式会社	Cプロジェクト	1,100,000	
2	001 本社	600 買掛金		033 ONE株式会社			1,100,000

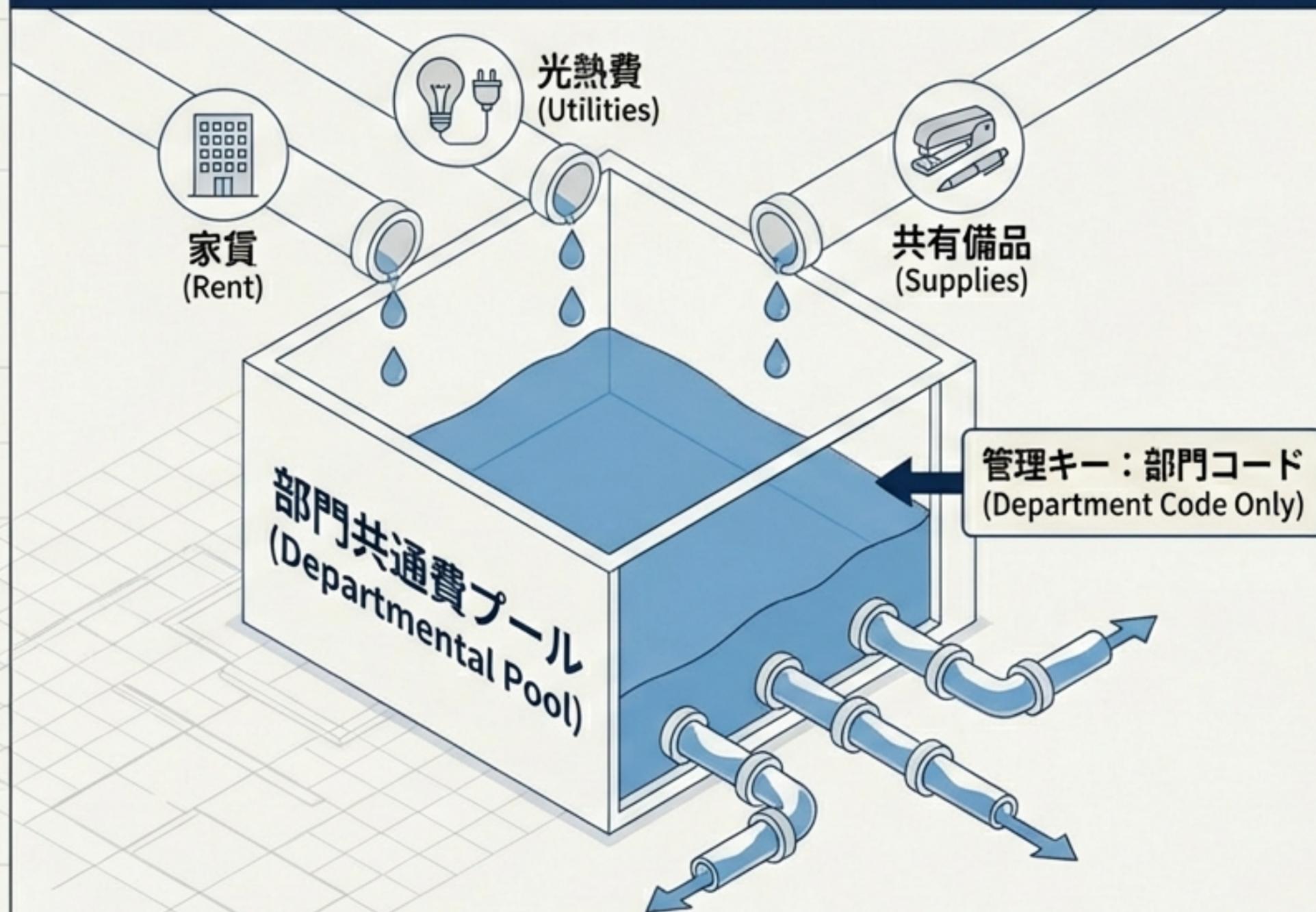


入力必須：
プロジェクトコードの付与

借方：外注費（プロジェクトA） /
貸方：買掛金

勘定科目だけでなく、必ず「プロジェクトコード（例: Cプロジェクト）」が入力されていることを確認してください。これが直接経費の紐付けの証拠となります。

ルート2：間接経費と部門共通費



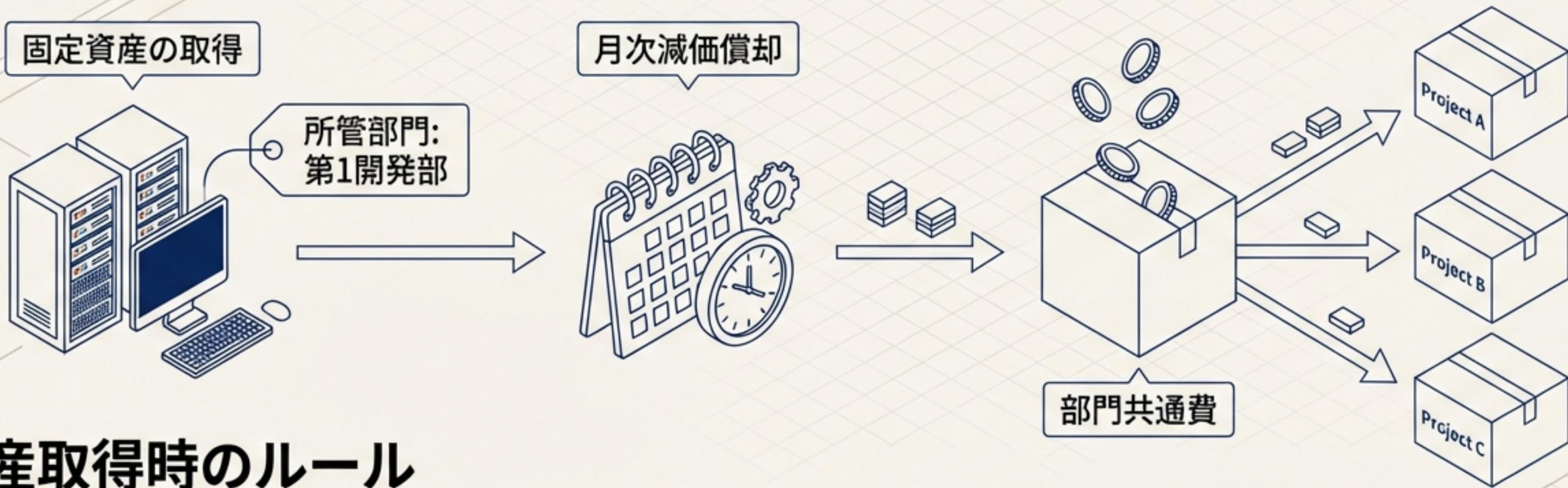
性質

特定のプロジェクトに直接紐付けられない費用（部門全体で消費するもの）。

処理

一旦「部門共通費・部門個別費」として プールされます。ここではプロジェクトコードではなく、「部門コード」を付して集計します。

固定資産と減価償却費の流れ



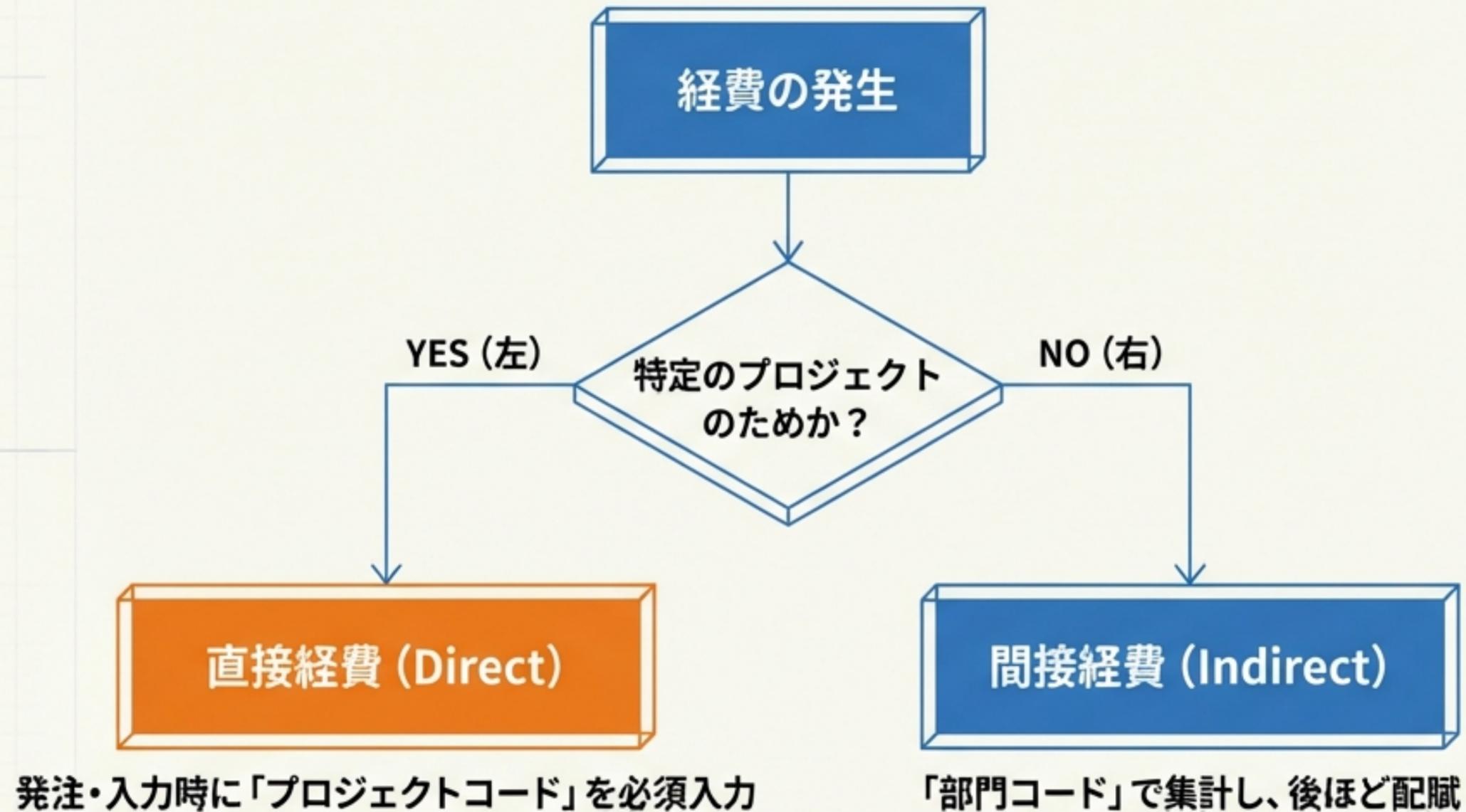
資産取得時のルール

固定資産の取得時には必ず「所管部門」を特定します。

償却費のフロー

その部門の固定資産に係る減価償却費は、その部門の共通費として認識され、最終的に配賦基準を通じて各プロジェクト原価の一部となります。

プロジェクト原価管理の決定木



入り口（発注・入力）での区分が、出口（プロジェクト収支）の精度を決定します。
「後で分ける」のではなく、「発生した瞬間に特定する」ことが実務の鉄則です。